

ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会の3年間

2016年4月、内外9名の被爆者が呼びかけてヒバクシャ国際署名の取り組みが始まった。被爆者は訴えた、「被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます」と。この呼びかけに諸団体が賛意を表し、やがて全国各地に署名運動推進の共同組織が生み出されていった。

北海道では2016年12月、北海道被爆者協会が諸団体に「核兵器廃絶国際署名に向けての共同のために」を呼びかけた。この中から北海道生協連、北海道平和運動フォーラム、北海道原水協、北海道被爆者協会が幹事団体となり、運動をどう構築するか何回も討議を重ねた。そして、2017年9月26日、道内の各界を代表する12名が呼びかけ、全国22番目の組織としてヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会が結成された。加盟方式ではなく、賛同参加というやや緩い結集の方式をとった。結成総会までに賛同参加の意思表示をしたのは団体118、個人5名であった(個人の参加は結成総会後に取り組んだ。最終的に団体121、個人172名)。以後幹事団体は事務局団体として会の取り組みを企画し運営することになった。

この間2017年7月7日に国連の場において122か国の賛成の下に核兵器禁止条約が採択された。歴史的な出来事であった。予想を超える速さで世界が動いていることを実感させた。ICANがこの年のノーベル平和賞を受賞した。

北海道民の会は節目に講演会や共同署名行動を入れ、その間は参加諸団体と個人がそれぞれのやり方で署名に取り組んだ(「歩み」年表、及び当会ホームページを参照のこと)。その結果、当初目標には届かなかったものの、3年余の取り組みで705,514筆の署名を集めて国連に届け(全国13,702,345筆の5.15%)、条約発効に貢献した。

運動の特徴を記すと、第一に、幅広い人々が呼びかけ幅広い諸団体・個人の共同の取り組みが作り出されたことである。事務局団体の組織的な力とその構成団体の積極的な取り組み、また消費者協会や農協関連団体、各地・各職域の九条の会など、多彩な取り組みがあった。核兵器禁止・廃絶の課題は全世界の人々共通の願いであることを改めて感じた。第二に、幅広い個人の参加と地域でのユニークな取り組みもあったが、団体と個人の参加は必ずしも大きくは広がらなかった。また道議会への働きかけも十分行うことができなかった。これらは反省点である。第三に、高校生平和大使の活動をはじめ高校生・青年層の様々な活動と結びつくことができた。運動の新しい芽をどう育てるか、若者との連携をどのように発展させるかは今後の課題として残っている。

2021年1月22日に、核兵器は非人道兵器、使用はもちろん開発も保有も威嚇もダメとする国際法の画期的な規範が打ち立てられた。世界史の新しい1ページが開かれたのである。ヒバクシャ国際署名の取り組みの成果をもとに、今後新しい時代を築いていく運動をさらに大きく広げていくことが必要であろう。

ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会 3年間の歩み

- 2016.04 内外9名の被爆者が国際署名呼びかけ
- 2016.12.06 道被爆者協会、「核兵器廃絶国際署名に向けての共同のために」呼びかけ
- 2017.07.07 国連で核兵器禁止条約採択
- 2017.09.26 北海道民の会発足 12名の呼びかけ 参加団体 118 個人 5 エルプラザ
- 2017.12.10 ICAN、ノーベル平和賞受賞
- 2018.03.31 署名 551,728 万筆
- 2018.04.21 ヒバクシャ国際署名ステップアップ集会 藤森俊樹氏講演 教育文化会館
- 2018.09.20 署名 602,107 筆
- 2018.09.29 結成1周年記念集会 エルプラザ
「核兵器のない世界のために私たちにできること」
上田文雄氏基調報告、高校生・青年たちとパネルディスカッション
- 2019.05.25 ヒバクシャ国際署名ジャンプアップ集会 教育文化会館
川崎哲氏講演会 高校生みらいトーク
- 2020.01.04～01.11 被爆75年初春展 エルプラザ 2F 交流広場
「原爆と人間」パネル展＋ジョー・オダネル写真展
- 2020.03.31 署名 687,198 筆
- 2020.07.05 PEACE WAVE「被爆75年 核兵器のない世界を」街頭宣伝行動 大通西3
- 2020.09.12 共同署名行動 大通西3
- 2020.09.18 署名 703,858 筆
- 2020.10.25 核禁条約批准国 50 か国達成、1月22日発効決まる
- 2020.10.31 核兵器禁止条約批准 50 か国達成記念
核兵器のない世界をめざす街頭宣伝行動 札幌駅南口広場

署名数 705,514 筆
署名道議会議員 38 名(但し第 30 期議員)
賛同・参加団体 121 個人 172
事務局会議 27 回(9 回までは幹事団体会議)

核兵器廃絶という共通の目標で集まった幅広い共同の運動体

- 2021.01.22 記者会見
- 2021.03.31 解散